



# ねりまの文化財

## 郷土資料室へ特別展

### 写真で見る神社の石造物開催中!

平成2年6月17日まで

石神井台一丁目16(石神井図書館内) ☎996—0五六三



諏訪神社(氷川台二丁目)

都市化した練馬の家並の途中に、緑深い神社の境域があります。私達の先人がカミに祈った足跡というだけでなく、年中行事への参加や、祈願などを通して、現在の人々の生活とも、深いかかわりがあります。境内に奉納された、数々の石造物

練馬区教育委員会  
社会教育課  
(文化財保護係)  
☎993-1111 内線2766  
〒176 練馬区豊玉北6-12-1

平成元年度

## 指定・登録文化財決まる

区報3月1日号で詳細をお伝えしましたが、昨年12月21日の文化財保護審議会の答申を受け、2月15日、長命寺の仁王門など15件を文化財として登録しました。

- 〈有形文化財〉長命寺仁王門・加藤家文書・妙福寺文書他
- 〈無形文化財〉鼈甲螺鈿蒔絵(べっこうらびだまきえ)
- 〈有形民俗文化財〉狐の大根取り
- 入れ図絵馬・下練馬の富士塚
- 〈無形民俗文化財〉関のぼろ市他
- 〈史跡〉旧大泉村役場跡
- 〈天然記念物〉カタクリ群落他

また、小島家文書など2件を初めて指定文化財としました。

は、それぞれがどんな目的で造られたものなのでしょうか。

郷土資料室では、区内全域にある神社の石造物について調査し、左記の冊子にまとめました。どうぞご覧下さい。

◎パンフレット(無料)

写真でみる神社の石造物

◎有償刊行物

練馬の石造物 神社篇 千200円(既刊)

練馬の石造物 神社総集編 千100円

(4月21日 発売開始)

練馬区、その中でも光が丘は、ここ50年の間に、純農村から超近代都市へと、驚くべき変容を示している。

「今の光が丘の前は何でしたか」という問いには、「グラントハイツでした」という答えが、即座に返ってくる。「その前は？」と、さらに問いかけると、「さあ、分かりません」と答える人が多い。「普通の農村でしょう」と答える人は、まだいい方で、「成増(または高松)飛行場がありました」と答えられる人は、少なくなっていました。

## 「光が丘」今むかし

文化財保護推進員 松本 龍雄

光が丘の昔を調べるために、戦前から戦中にかけて、この地で農業を営んでいた人々の話を聞いてみた。すでに代替わりしていたり、人それぞれに立場や受けとめ方が違っていたり、記憶が必ずしも正確でない場合もあったりして、昔から住んでいた人々の中にも風化が進んでいるように思われる。

この土地の変化は、やはり戦争ぬきには考えられない。歴史の中の小さな事実として書きとめておきたいと思う。

昭和18年(1943)以前

東京の周辺に緑地帯を設けるという計画が、昭和14年に決定した。その中に、大泉から土支田にかけて東西にのびる地域が含まれていた。

昭和16年、防空法が成立し、防空緑地という考え方に変わり、昭和17年には測量が始まったが、戦局が熾烈になるとともに、陸軍の航空基地に変更された。

光が丘は、もとの練馬高松町、練馬田柄町、練馬土支田町にまたがる農村であった。中央部に田柄川・田柄用水が西から東へ流れていた。「主なし」と呼ばれ

る水はけの悪い所があり、ヨシやスキや雑草でおおわれていた。雨が降るとどこにも流れず湿地帯になっていた。また台風シーズンになると、3年に1度くらいは野水が出て、田柄川に流れこんだ。主なしを除いては肥沃な農地で、豪農といわれる農家が多かった。当時の農産物には次のようなものがあつた。

米(陸稲が多く、水稲は少なかった)  
大麦・小麦・粟・大根・人参・牛蒡  
じゃがいも・さつまいも・さといも  
うり・西瓜など。

3/28

## 春休み 親子史跡散歩

大泉のむかしを訪ねよう

満開の桜の下、大泉学園駅北口周辺で行いました。参加は、親子一組を含む13人。文化財保護推進員で、大泉の歴史に詳しい石井薫さんの説明を聞き、約2時間30分の歴史の旅を楽しみました。

大泉小学校隣の北野神社に集合。お松塚↓妙福寺↓諏訪神社↓本照寺↓馬頭観音↓大泉村役場跡と訪ね、妙延寺で解散。

諏訪神社では、平成元年度の有形文化財に登録された「狐の大根取り入れ図絵馬」を、特別に見せて頂きました。絵馬の由来や練馬に残る絵馬の話も聞き、改めて興味を抱いた参加者もいたようです。大泉村役場跡も、今では児童遊園となりました。白子川も汚れ、昔の話を聞くにつけても、大泉の変わりように驚くばかりでした。

伝説に残された「お松様」や「力持惣兵衛」の馬頭観音も訪ねました。路傍にある松や石ではありましたが、語り継がれて今に伝わるお話しに、昔の人の思いが感じられます。郷土を知るよすがとして、大切に保存していかなければと思ひ



昭和18年4月

飛行場用地買収始まる。家屋移転は8月完了の命令。移転した農家、高松19、大門山4、八丁堀3、八丁原30、上田柄1、神明ヶ谷戸（辻庚申も含む）9、計66軒（同居を含め80世帯）。大部分の農家は親戚に助けられて、飛行場用地周辺に土地を求めて移り住んだ。一軒だけ、相模原に移転した。

昭和18年7月

飛行場建設工事開始。南北千800m、東西千500m。工兵隊、建設業者の他、豊多摩刑務所囚人で編成した建設隊、勤労奉仕の産業国隊・動員学徒などが従事。

昭和18年12月〜20年2月

18年12月、飛行第47戦隊配備。二式戦鐘馗2個中隊。19年1月、3個中隊編成となる。19年11月、特別攻撃隊編成（隊員4名）  
19年12月〜20年2月、四式戦疾風に機種改変。当時、稼働率87%は整備の優秀さを示していた。19年12月24日〜20年2月10日、B29迎撃4回。撃墜19（内体当たり6——戦死5、生還1）撃破29。  
20年2月16日、艦載機迎撃、撃墜18。迎撃禁止となる。

昭和20年（1945）8月15日

敗戦。残余の飛行機は米軍が焼却。飛行場は国有地として、大蔵省の管理下となり、その後、特別調達庁東京特別調達局の管理下となる。21年、一時開墾を許可されたが、すぐに米軍が接収し、敷地を拡張し、上板橋駅より北町の陸軍倉庫への引込線を延長（啓示「ヘイシー」線6.3km）開設。34年廃線。最初、グラントハイツ建設資材をはこぶ。

昭和22年4月

グラントハイツ着工。23年6月完成。

昭和45年6月、返還直前の規模、面積百83万1千418㎡、人口約5万人。旧滑走路がメイン・ストリートになっていた。

昭和39年12月18日

須田練馬区長、都知事にグラントハイツ返還要請。この後、返還運動が盛んになり、昭和47年〜48年、3次にわたって返還された。

昭和44年9月1日

光が丘住居表示案内図ができる。「光が丘」とは、緑と太陽のまち練馬を象徴して名付けられた。

昭和49年

光が丘公園の都市計画決定

計画決定。

昭和54年

住宅施設・道路などの都市

ました。

学校で習ったばかりだからと、参加してくれた小学校四年生のいずみちゃん。難しい話だったかもしれないませんが、最後に「楽しかった」と言う笑顔が、とても印象に残りました。（須）



妙福寺（南大泉五丁目）

昭和56年（1981）

光が丘住宅建設工事始まる。

〔この文章は、故松本氏が「史跡散歩」のために提供された原稿を、社会教育課の責任で抄録したものです。〕

文化財保護推進員第1期へ

区内にあるいろいろな文化財の様子を  
確認したり、文化財保護の考え方を区民  
に広める役割の、文化財保護推進員が活  
躍しています。定員は10名。区内を10区  
画に分けて、巡回等をおこなっています。  
2月1日で、2年目をむかえました。

10名のうち9名が再任されましたが、  
大泉学園町2丁目の加藤喜平氏が都合に  
より退任され、東大泉1丁目の石井薫氏  
が新しく就任されました。また、桜台3  
丁目の鈴木曹元氏が3月1日に、就任さ  
れました。

〈担当地域一覧〉 敬称略

井口 敏 石神井台・関町(全域)・立野町

文化財日誌

(平成2年1月1日～3月31日)

〈1月〉

- 16日 埋蔵文化財立会なちあひ(水川台二丁目)
- 17日 埋蔵文化財試掘(大泉町二丁目)
- 19日 埋蔵文化財立会(石神井町一丁目)
- 26日 文化財防火デー(3か所)

〈2月〉

- 6日 埋蔵文化財試掘(大泉町二・五丁)

石井 薫 大泉学園町・西大泉・南大泉  
伊藤経一 豊玉(全域)・中村(全域)・小竹町  
旭丘

旭丘

岩崎美智子 富士見台・南田中

瓜生 清 旭町・土支田・大泉町・  
三原台・石神井町

三原台・石神井町

加藤佐平 田柄・春日町・高松・光が丘

亀井邦彦 東大泉(鈴木曹元担当地域)

桑島新一 谷原・高野台・向山・貫井

鈴木曹元 北町・錦・氷川台・平和台・  
早宮・桜台・練馬・栄町・羽沢

早宮・桜台・練馬・栄町・羽沢

長坂淳子 上石神井・上石神井南町  
・下石神井

・下石神井

目)

13日 石神井城址調査会 資料リスト調

査部会(以下「調査部会」) ②

19日～3月20日 埋蔵文化財発掘調査

(富士見台四丁目)

20日 石神井城址調査会 調査部会③

22日～3月5日 埋蔵文化財発掘調査

(富士見台四丁目)

25日 東京都遺跡調査・研究発表会

(練馬公民館)

《お悔み申し上げます》

松本 龍雄さん 66歳

(平成2年2月15日逝去)

練馬区文化財保護推進員・郷土  
資料調査員など。練馬区の庚申塔  
などの調査に従事。旧下練馬村の  
歴史・光が丘の歴史等を主に研究。

埋

蔵文化財の相談・問合せ・届出等が  
激増しました。昨年7月の第4号に

も同内容の記事を出しましたが、昭和63  
年度窓口照会296件に比べ、平成元年度は  
460件と、活発な土地利用がうかがえます。  
文化財の保護に配慮しながら、開発行為  
がなされるよう願ってやみません。

〈3月〉

- 26日 埋蔵文化財試掘(大泉学園町九丁目)
- 27日 石神井城址調査会 調査部会④
- 28日 埋蔵文化財試掘(貫井五丁目)

8日 石神井城址調査会 調査部会⑤

12日～15日 埋蔵文化財試掘

(早宮一丁目)

13日 文化財保護推進員会(川越市視察)

28日 春休み親子史跡散歩(大泉地域)

31日 石神井城址調査会(全体会)